

古墳とヤマト王権

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

古墳はなぜつくられ、ヤマト王権はどこまで勢力を広げたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 古墳の出現

古墳時代のはじまり

古墳

王や豪族の墓として土を盛り上げてつくられた墓。

前方後円墳

四角形と円形を組み合わせた形の古墳。

埴輪

古墳の周りや上に並べられた、土でつくられた焼き物。

3世紀後半になると、西日本を中心に、王や豪族の墓として土を高く盛り上げた**古墳**がつくられるようになった。この時代を**古墳時代**という。古墳には、四角形と円形を組み合わせた**前方後円墳**や、円形の**円墳**、四角形の方墳などの形がある。

大阪府堺市の**大仙古墳**は日本最大の前方後円墳で、**仁徳天皇**の墓と伝えられている。大仙古墳をふくむ**百舌鳥・古市古墳群**は、世界遺産に登録されている。古墳の周りや上には、人や動物、家などをかたどった**埴輪**が並べられた。

古墳の内部には遺体をおさめた石室がつくられ、銅鏡や玉、鉄製の武器やよろい、馬具などがおさめられた。大きな古墳をつくるには多くの人々を働かせる必要があったため、古墳の大きさは、ほうむられた王や豪族の力の大きさを示していると考えられている。

2 ヤマト王権と大王

王権の広がり

ヤマト王権

大和政権ともいう。奈良盆地を中心とする豪族たちの政治のまとまり。

大王

ヤマト王権の指導者の呼び名。

ワカタケル大王

5世紀後半の大王。稲荷山古墳の鉄剣などに名が刻まれている。

奈良盆地を中心とする地域では、有力な豪族たちが連合して**ヤマト王権**(大和政権)と呼ばれた政治のまとまりをつくり、その指導者は**大王**と呼ばれた。各地の豪族は、それぞれの地域を治めながら大王に従い、大王は豪族たちに役割や地位を与えて、広い範囲をまとめようとした。ヤマト王権の勢力は、やがて九州地方から東北地方南部にまで広がった。

埼玉県の**稲荷山古墳**から出土した鉄剣と、熊本県の**江田船山古墳**から出土した鉄刀には、どちらも**ワカタケル大王**と読める名が刻まれていた。このことから、5世紀後半には、ヤマト王権の力が関東地方から九州地方にまで及んでいたと考えられている。また、このころすでに漢字が使われていたこともわかる。

古墳	場所	出土したもの
稲荷山古墳	埼玉県(関東地方)	鉄剣 ワカタケル大王の名
江田船山古墳	熊本県(九州地方)	鉄刀 ワカタケル大王と読める名

問いへの答え

3世紀後半から、王や豪族は自分の墓として古墳をつくり、大仙古墳のような巨大な前方後円墳も現れた。古墳の大きさは、ほうむられた人の力の大きさを示している。奈良盆地の豪族が連合したヤマト王権は大王を中心にまとまり、稲荷山古墳と江田船山古墳の鉄剣・鉄刀から、5世紀後半には関東から九州まで勢力が及んでいたと考えられる。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

